

アベノミクスとリバランス

自民党に政権が移り、安倍首相が新しい経済政策「アベノミクス」を実施したことにより、株高・円安が進んで、日本経済に明るい兆しが見えてきました。

厚生年金基金や確定給付企業年金の資産運用利回りも改善し、確定拠出年金の個人別管理資産額も増えていくことでしょう。

株を積み増していきたいと考えることも当然のごとく出てくるのではと思います。しかし株価が上がっているときには、株の割合を増やさないほうがよいという考えがあるのを皆さんはご存知だと思います。

確定拠出年金を例にとれば運用商品を選んだらそれで終わりではありません。原則 60 歳まで給付が受けられず、長い場合は何十年も付き合うこととなります。市場は常に変動する可能性があるため、それに合わせて商品ごとの投資金額や運用商品の配分を変えたり、運用商品自体を入れ替えたりすることが必要です。

資産運用ではライフプランに合わせて目標利回りを定め、それを実現するための資産配分を決めていくことが大事です。そのため、最初に目標として想定した利回りを達成できそうもないときや、ライフプランそのものが変わったときなど前提が変わった場合には運用商品も見直す必要があります。

逆に、最初に自分で目標にした利回りを上回っていても、見直しの必要があります。例えば株式を保有している場合、最初に決めたときより株価が上昇すると、資産全体における株式の構成比率が高まってしまいます。株式の比率が高くなると、それだけ価格変動リスクも高くなり、ライフプランにも合わなくなってしまうため、資産配分を見直す必要性が高まってくるわけです。特定の資産が増えると、最初に決めた資産配分とズレが出てくるため、当初と同じ配分になるように運用商品を入れ替えて資産配分を調整します。いわゆる「リバランス」といわれている投資行動です。

リスク許容度の考えからいうと、若いうちは退職までの期間が長く、運用が落ち込んでも挽回する見込みがあるため運用のリスク許容度は大きいですが、年齢が上がるにつれてリスク許容度は下がってくるため、株式の割合を減らして債券や元本確保型の商品を増やしていくのが基本なのでしょう。しかしリバランスでは、むしろ運用商品の構成を「年齢とともに変えない」を主としています。年齢とともに株式の配分を下げると、運用利回りも低下し、最終的に目標の資産額に届かないことがあります。60 歳時点で、あてにしていた資産額より少なかったら困ります。安全資産にシフトしていくのも大切ですが、目標とした運用利回りを確保したいなら、そのための見直しは必要です。いわば、「変えないために変える」ということとなります。リバランスでは、利回りが

良い商品を取り崩すことになるので、なんとなく抵抗がありますが、将来のリスクを考えるとやっておくべきでしょう。

本来であれば、株価が安いときに株を買って、株価が高いときに株を売れば儲かるのですが、基本的には難しい投資行動です。リバランスには、”高いときに売って安いときに買う”効果もあらかじめ備わっていますので、しっかり活用すべきです。ただ、リバランスが絶対というわけではなく、運用環境が見えないときは、様子見をし見直さない、または一時的に定期預金等に待避することも当然ながらあるでしょう。

こんな時こそ、基本原則を忘れないで投資に向かいあうべきと考えます。

以 上

〈著者プロフィール〉

中林 宏信 氏

年金数理人、社団法人日本アクチュアリー会正会員、トータル・ライフ・コンサルタント（生保協会認定FP）日本商工会議所認定1級DCプランナー、確定拠出年金普及協会認定DCアドバイザー等。

日本年金数理人会、日本アクチュアリー会、厚生年金基金連合会（現企業年金連合会）、生命保険協会等の各委員会の委員・委員長を歴任、厚生年金基金、確定給付企業年金、適格退職年金、確定拠出年金等の年金財政・コンサルティング、退職給付会計の算定・検証・コンサルティングを中心に活動。

生命保険計理・商品分野や収益・リスク管理分野、資産運用分野にも詳しく、講演・執筆活動も多数。